

## ま え が き

大きな社会的要請の中で進められている琵琶湖総合開発事業はいよいよ具体化されつつあり、これによっておこる湖水位の低下変動が水産生物に与える影響は大きなものがあると推察される。

これらの影響を把握する基礎資料として、昭和28年度 当场では、水位低下対策（水産生物）調査として、湖岸帯の生物相調査を実施し、その概要を報告した。

爾来10数年を経過したが、最近における琵琶湖水域の環境変化には著しいものがあり、さきに実施された、びわ湖生物資源調査団の調査結果からみても一部生物相に変化があらわれている。

琵琶湖総合開発事業が具体化されつつある現在、あらためて、現況の把握と今後の水産対策の基礎資料とするため昭和28年度の調査を基として、今回再度 琵琶湖沿岸帯調査を実施することとした。

本調査は、当场の重点調査事業として実施したものであるが、方法論的にも内容的にも、多くの問題点が残されているが、これらの点については別途詳しく検討を加えることとし、本報では、概要を報告するにとどめた。

本調査を実施するにあたって、ご援助をいただいた県琵琶湖総合開発局に感謝するとともに水生昆虫類の査定を煩わした奈良女子大学 河合禎二博士に厚くお礼申上げる。